

CASBEE 京都-新築(2011年版)
 京都大学国際科学イノベーション

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境									2.8
1 音環境									2.6
1.1 騒音						2.6	0.15		
1.1.1 騒音						3.0	0.40		
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	1.0	
2 設備騒音対策									
1.2 遮音						2.2	0.40		
1 開口部遮音性能						3.0	0.30	1.0	
2 界壁遮音性能						3.0	0.30	1.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	0.20	1.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	0.20	1.0	
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	
2 温熱環境						2.0	0.35		
2.1 室温制御						3.0	0.50		
1 室温						3.0	0.60	1.0	
2 高気密・高気密制御性									
3 外皮性能						3.0	0.40	1.0	
4 ゾーン別制御性						3.0			
5 温熱・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間帯空調に対する配慮									
8 熱源の位置									
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	
3 光・視環境						3.0	0.25		
3.1 昼光利用						3.0	0.30		
1 昼光率				●自然 A(全国標準用)		3.0	0.60	1.0	
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		
1 遮光器具の対応									
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)		3.0	1.00	1.0	
3 映り込み対策									
3.3 照度						3.0	0.15	1.0	
3.4 照明制御						3.0	0.25	1.0	
4 空気質環境						4.1	0.25		
4.1 発生源対策						5.0	0.50		
1 化学汚染物質						5.0	1.00	3.0	
2 放射線対策									
3 有害ガス									
4 微生物対策									
4.2 換気						2.6	0.30		
1 換気量						4.0	0.33	3.0	
2 自然換気性能				●自然 A(全国標準用)		3.0	0.33	1.0	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	1.0	
4 給気計画									
4.3 運用管理						4.0	0.20		
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		
2 喫煙の制御						5.0	0.50		
Q2 サービス性能							0.30		
1 機能性						3.3	0.40		
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40		
1 広さ・収納性						4.0		3.0	
2 高度情報通信設備対応						3.0		3.0	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)		3.0	1.00		
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30		
1 広さ感・景観				●とも C(独自加算)		3.0	0.50	3.0	
2 リフレッシュスペース						3.0			
3 内装計画				●とも D(独自基準)		3.0	0.50		
1.3 維持管理						4.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計						4.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保						4.0	0.50		
2 耐用性・信頼性						3.1	0.31		
2.1 耐震・免震						3.0	0.48		
1 耐震性						3.0	0.80		
2 免震・制振性能						3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.33		
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国標準用)		3.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						5.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23		

2.4 信頼性					3.4	0.19			
1	空調・換気設備			熱源種の分散化、系統区分	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			節水器具、排水貯留槽、井水利用、雨水利用	5.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			公共建築工事標準仕様書(機械)平成25年版に	5.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.1	0.29			3.1
3.1 空間のゆとり					3.6	0.31			
1	階高のゆとり			階高3.9m~3.7mに設定。	4.0	0.60	1.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	1.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	計画敷地を隣接敷地から離れてところに計画し、 に隣接する敷地を考慮する。	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)	土木工学棟のレンガ積みの意匠を継承	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.6
LR1 エネルギー					-	0.40			4.3
1 建物の熱負荷抑制				PAL計算による。	4.7	0.30			4.7
2 自然エネルギー利用					4.0	0.20			4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光を利用。	6.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					4.7	0.30			4.7
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)				ERR=29.2%	4.7				
集合住宅の評価					4.9				
4 効率的運用					3.5	0.20			3.5
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			運用、維持、保全の基本方針が計画されている。	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.4
1 水資源保護					3.8	0.15			3.8
1.1 節水				節水コマ、節水型便器の採用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.6	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	便所洗浄水として雨水利用。	4.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.63			3.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材の利用、再生骨材の利用	4.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	再生骨材、再生アスファルトの採用。	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				指定科学物質を含有しない建材の使用。	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮					2.3	0.33			2.3
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.3	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.33			
2	振動				3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			屋外広告物に照明設備はない。	4.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例「大切」:大切に使う「とも」とともに使う「自然」:自然からつくる